

白石市文化財調査報告書第39集

中ノ在家遺跡

平成23年3月

白石市建設部
白石市教育委員会
(宮城県)

例　　言

1. 本書は白石市教育委員会が実施した白石市建設部の市道耕野2号線道路改良事業に伴う中ノ在家遺跡発掘調査報告書である。発掘調査、報告書刊行に係る経費は白石市建設部が負担した。
2. 上層の色調表記については『新版標準土色帖』(小山・竹原、1996)を用いた。第1図は国土地理院2万5千分の1白石南部を複製して使用した。その他は白石市建設部の工事測量図を用いた。
3. 検出遺構の略号は以下の通りである。
SD : 溝状遺構　SK : 土坑
4. 本事業の調査は白石市教育委員会生涯学習課の日下和寿が担当した。報告書本文執筆は佐藤敏幸（東松島市教育委員会）が第5章第1節、その他を日下が担当した。資料整理は岡部とき子があつた。
5. 発掘調査の実施、報告書作成にあたっては宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・個人から御協力、御指導をいただいた（敬称略）。
土師器、須恵器　石木 弘（白石市文化財保護委員）
菅原祥夫（福島県文化財センター）
佐藤敏幸（東松島市教育委員会）
村田晃一、柳澤和明（東北歴史博物館）
陶磁器　佐藤 洋（仙台市教育委員会）
写真撮影　君島武史（北上市立埋蔵文化財センター）
発掘調査　亀岡建設株式会社、越河公民館
6. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

調査要項

遺跡名称　中ノ在家遺跡（宮城県遺跡登録番号 02417）
遺跡所在地　宮城県白石市越河平字中在家
調査理由　市道耕野2号線改良工事
調査主体　白石市教育委員会、白石市建設部
調査担当　白石市教育委員会生涯学習課　日下和寿
調査期間　平成22年6月1日～10月1日（確認調査及び事前調査等）
調査面積　2,551.7 m²（発掘面積 344 m²）

第1章 調査に至る経過

白石市南部に位置する越河地区は、南は福島県国見町と県境を接し、東は丸森町耕野地区と接している。白石市建設部では、既存市道拡幅工事を計画的に実施してきたが、今回、越河平地区と耕野地区を結ぶ道路のうち耕野2号線が拡幅対象となり、平成21年度から工事が着手された。工事区間は520mであった。

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

中ノ在家が位置する越河地区は白石市中心部と比較すると標高が高く、地区の中央低地でも140mほどである。小規模な盆地状の地形を呈しており、最大で東西1.1km、南北3.3kmほどの規模である。国道4号が中央西側、東北自動車道が盆地東側を通過している。その両側に水田、畑地等が広がり、その背後に傾斜のある丘陵が存在する地形となっている。住宅は水田、畑地と丘陵が接する箇所に多く見られる。盆地の東端を斎川が北流している。発掘調査箇所はJR東北本線越河駅から南東へ約0.86km、白石市役所から南へ7.8kmの丘陵上にある。丘陵は東から西へ傾斜し、丘陵の南斜面に遺跡が立地している。

中ノ在家遺跡においては平成12年12月、越河平字入63-3ほかにおいて住宅建設に伴う確認調査、農業集落排水管理設工事に伴う工事立会が平成17年11月11日に実施されているが、共に遺構、遺物とも発見されていない。平成18年11月には文化財パトロール事業で、中ノ在家遺跡が調査対象となっている。

第2節 周辺の遺跡

中ノ在家遺跡が所在する越河地区的埋蔵文化財の最大の特徴は城館跡の集中にある。周辺には、太齋館跡、愛宕館跡、丑形山館跡、烏沢小屋館跡、明堂館跡がある。縄文時代、古代に属する遺跡も多いが、発掘調査が実施された個所は少なく不明な点が多い（第1図）。農業集落排水事業完了後は、埋蔵文化財発掘届出・通知も少ない。

3.5km北には馬牛館跡がある（中橋1987）。保存状態は概ね良好で、調査が待たれる館跡である。南側に接する馬牛沼は何時から存在するかは、未だ確証がないが、沼底には埋没林があり、年代測定を行うことによって、沼の形成年代の手懸かりを得られる可能性がある（高橋1978）。

第1図の範囲外であるが、県境近くに越河防壁がある。阿津賀志山防壁のうち、最も北に所在する第4の防壁とされている（菊池1994）。この防壁は、現在、越河字二段場に所在する虚空藏館跡（登録番号02158）に含まれている。



番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	出土品
1	02369	中ノ在家遺跡	越河平字中ノ在家	散布地	縄文・古代	剝片、土師器、須恵器
2	02369	山根遺跡	越河平字中ノ瀬	散布地	古代	土師器、須恵器
3	02162	山根遺跡	越河平字中瀬山	城壁	中世	
4	02218	明治城跡	越河平字明治	城壁	中世	
5	02370	愛宕山遺跡	越河平字愛宕山	散布地	古代	土師器、須恵器
5	02026	打越前遺跡	越河平字打越前	散布地	平安	土師器(表札ノ入)、須恵器
6	02159	愛宕城跡	越河平字愛宕山	城壁	中世	
7	02180	笠森小屋跡跡	越河平字愛宕山	城壁	中世	
8	02225	丑木山跡跡	越河平字丑木形山	城壁	中世	
9	02021	馬場台遺跡	越河五賀字馬場台・宮	散布地	旧石器・縄文・古代	種器、剥片、石器、石匙、土師器、須恵器
10	02022	峠遺跡	越河五賀字峠沢	散布地	縄文後・古代	縄文土器、土師器
11	02368	古屋整遺跡	越河五賀字古屋敷	散布地	縄文前・古代	縄文土器(複数土器)、土師器、剥片
12	02367	矢戻遺跡	越河平字矢戻	散布地	古代	土師器、須恵器
13	02184	鳥穴小屋跡跡	越河字鳥穴	城壁	中世	
14	02019	西A遺跡(五賀西遺跡)	越河字五賀西	散布地	縄文前	縄文土器(複数土器)
14	02228	見水寺跡跡	越河五賀字西	寺院	近世	
15	02017	西B遺跡	越河五賀字西	散布地	縄文後・弥生・古代	縄文土器(宝ヶ臺)、弥生土器(樹形圓)、土師器、須恵器
16	02219	西D遺跡	越河五賀字西	散布地	縄文後・平安	縄文土器(宝削寺)、土師器
17	02187	八幡台前遺跡	越河字八幡台	城壁	中世	
18	02016	舞森春田遺跡	越河五賀字舞春田	散布地	縄文	縄文土器(大木9)
19	02226	勢妙跡跡	越河五賀字見明	城壁	中世	
20	02168	乙森小屋跡跡	越河五賀字乙森	城壁	中世	
21	02169	原遺跡	越河字原	散布地	縄文・平安	土師器、須恵器、剥片
22	02170	馬牛難跡	越河字馬牛山	城壁	中世	
23	02161	大森遺跡	越河字大森里敷上	城壁	中世	

第1図 遺跡地図

第3章 調査の経過

第1節 調査の経過

今回の工事は、現道の両脇を拡幅するものである。事業区の西端は既に盛土工事が行われており、調査は実施できなかった。その他の箇所の確認調査は6月以降、工事に先立ち実施し、一部で遺構が確認されたことから、事前調査を行った。工事立会は工事に併せ、隨時実施した。

第2節 調査の方法

拡幅箇所で重機で掘削が可能な箇所は重機を使用しながら、確認調査を実施した。また、現道下もアスファルトを剥がした後で、確認調査を実施したが、北半には既存水道管、南半には農業集落排水管が埋設されており、本来の土層が残っている箇所は少なく、あるいは過去の削平が著しかったため、遺構、遺物の出土はなかった。法面掘削などの箇所は面積が狭いことから工事立会を行った。

第4章 発見された遺構と遺物

確認調査トレンチは第2図に示した7箇所に設定した。遺構が確認されたのはT3のみで、T4、T2で遺物が若干発見されたのみであった。T3附近の畑地では土師器等が表探される。

調査の結果、円形の溝状遺構1基、ピット1基、土師器、須恵器、近世陶磁器、和釘が発見された。溝状遺構は幅0.4～0.6mで、5m分ほど発掘を行った(第4、5図)。推定直径2.7mになると見込まれ、事業区外の南側に拡がる。東側は掘り込みが浅く、幅が広く、深さ0.2m程、西側は底面ほど、幅が狭まり0.4m程であった。遺構上面では、焼成を受けた礫がやまとまって出土した。遺構埋土、基本層位から土師器、須恵器が出土した(第6図)。溝状遺構の上面で発見されたピットは溝状遺構よりも新しいものである。直径約0.3m、深さ0.2mで、堆積土に珪化木が含まれていた。出土した土師器、須恵器は溝状遺構からの出土が多かった。破片で図示しなかったものには、溝状遺構6層の土師器壺がある。図示した土師器、須恵器は、その特徴から、9世紀代のものと考えられる。

土師器、須恵器は実測できる個体は少なく、小破片が多かった。少ない資料の中に会津大戸窯産長頸瓶が2点含まれていた(第6図1、2)。白石市内では近年、大戸産須恵器の確認例が増加しているが、市南部では初めての発見である。次章において今回確認された会津大戸窯産須恵器を中心とした搬入された須恵器について、市内各地の資料も検討に加え考察する。

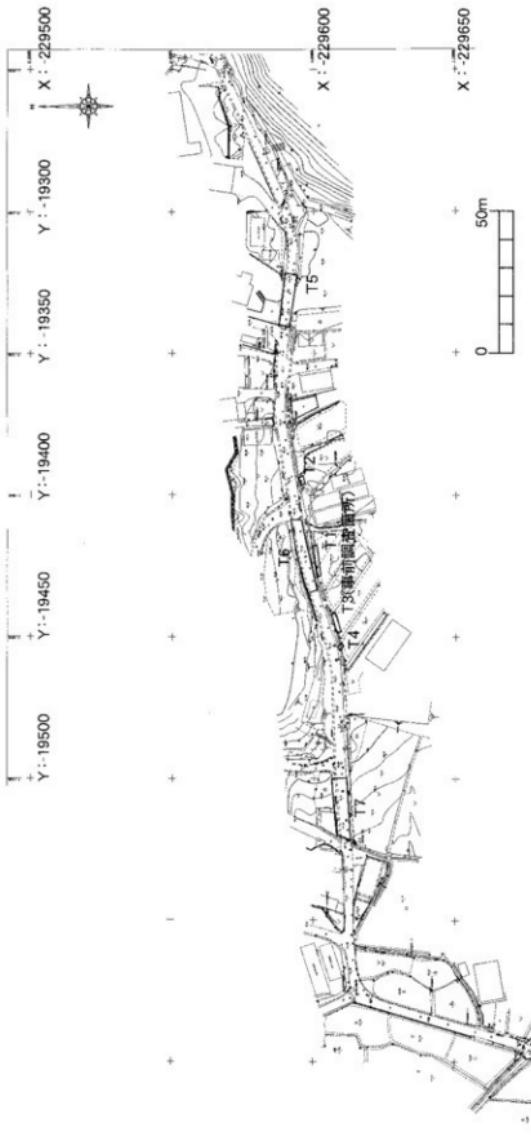
陶磁器は古いもので17世紀代、新しいものは近現代のものが含まれていた。

第5章 考察

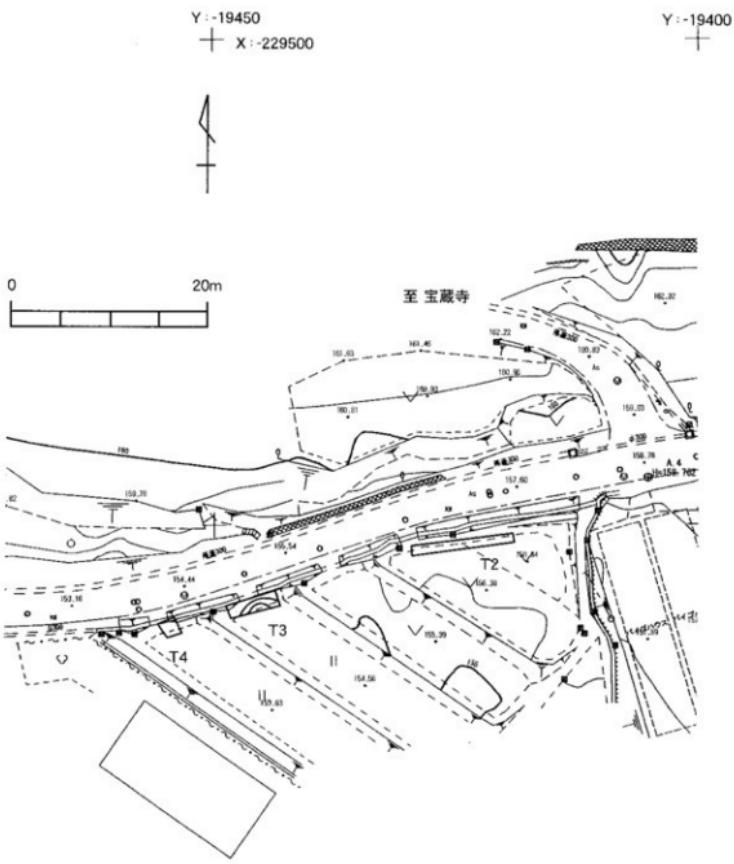
ここでは、今回出土した大戸窯産須恵器を中心に考察する。既に報告書が刊行されている発掘調査資料と、寄贈資料の見直しを行ったところ、第7図に示したように、市内各地において搬入須恵器が確認されている。次節で詳しく述べることにする。

第1節 白石市内出土の搬入須恵器について

第7図1～3は丁寧なつくりで胎土は白っぽく混入物はほとんど認められない。また、重量も軽い。いずれも器形、胎土、色調から静岡県湖西窯跡群で生産された須恵器と考えられる。第7図1は横瓶の体部片と考えられる。ロクロ成形で、外面に回転ケズリ、内面にロクロナデがみとめられる。外面

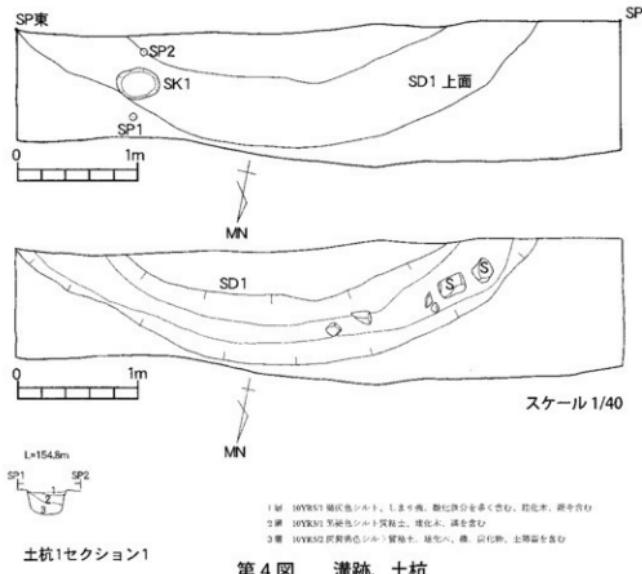


第2図 調査区位地図

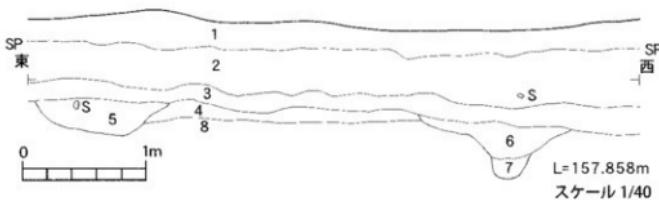


第3図 T2～T4配置図

には緑色の自然釉が観察される。全体の器形が不明のため詳細な年代は明確にできないが、概ね7世紀から8世紀初頭と考えられる。第7図2はフラスコ形長頸瓶の体部片と考えられる。ロクロ成形で、外面に回転ケズリ、内面にロクロナデがみとめられる。外面には濃い緑色の自然釉が観察される。湖西窯跡群産フラスコ形長頸瓶は6世紀末から7世紀代に生産されたものであるが、宮城県内では淡い自然釉がかかったものが多い。濃い緑色の自然釉は利府町菅谷道安寺横穴群出土の大型フラスコ形長頸瓶、提瓶（利府町教委1978）、大崎市坂本館山横穴墓群出土提瓶（三木本町教委1971）の、6世紀末から7世紀前葉に位置づけられるものに類例がある。全体の器形が不明のため詳細な年代は明確にできないが、本資料も6世紀末から7世紀前葉の可能性がある。第7図3は長頸瓶あるいはフラスコ



第4図 溝跡、土杭



第5図 T3 土層断面図

T3

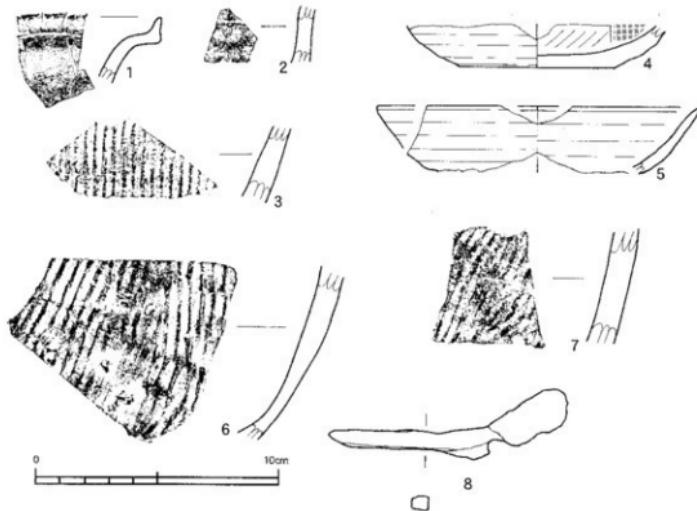
- 1層 HYRK6/2 にぶい黄褐色シルト
- 2層 HYRK5/2 黄褐色シルト、炭化物、灰、黄色粒子を多く含む
- 3層 HYRK4/1 黄褐色シルト、炭化物、灰、黄色粒子を多く含む
- 4層 HYRK5/0 にぶい黄褐色シルト、炭化物、灰、黄色粒子を多く含む
- 5層 2層と同じ
- 6層 HYRK5/1 黄褐色シルト、水分多い、炭化物、灰、黄色粒子を多く含む
- 7層 HYRK5/0 にぶい黄褐色シルト、水分少く、灰を含む、黄色粒子を多く含む
- 8層 HYRK4/2 黄褐色シルト、炭化物を含む

5~7層は高瀬の地盤で、T-7層には土器破片、小石が混在する。

T3

- 1層 HYRK4/3 にぶい黄褐色シルト質砂、層厚 20cm
 - 2層 HYRK3/1 黑灰色土柱、24cm
 - 3層 HYRK2 黑褐色シルト、黑色物多い、5cm以上
- T2
- 表土直下に大石あり、それ以上の層ではできなかった。
- T4
- 1層 にぶい黄褐色シルト、20cm
 - 2層 黑褐色土、下部では砂を多く含む、黄色粒子を含む、高さ、40cm以上

形長頸瓶の頸部片である。ロクロ成形で、内外面にロクロナデがみとめられ、シボリ痕跡がある。体部との接合には、風船技法が用いられている。外面には緑色の自然釉が観察される。体部、口縁部が欠損することから詳細は不明であるが、頸部の長さから、概ね7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。東北地方における静岡県湖西窯跡群産須恵器の主たる流通は、太平洋岸の宮城県北部地域が北限地域と考えられており（佐藤・大久保2007、佐藤敏幸2010）、本資料も出土例に位置づけられる。白石市の古墳時代後期から飛鳥時代の交流を考える上で貴重な資料である。



図版番号	器種	出土位置、層位	特徴	図版番号	器種	出土位置、層位	特徴
第6図1	須恵器長 頸瓶	溝状遺構、6層	口縁部破片、内外面、ロクロナデ、大戸產	第6図5	須恵器環	4層	内外面、ロクロナデ、推定口徑13.2cm、残存高2.7cm
第6図2	須恵器長 頸瓶	溝状遺構、6層	頸部破片、内外面、ロクロナデ、大戸產	第6図6	須恵器壺	2層	体部破片、外側は平行タタキ、赤黒色化している、内面はナデ
第6図3	須恵器壺	溝状遺構、6層	体部破片、外側は平行タタキ、内面はナデ	第6図7	須恵器壺	2層	体部破片、外側は平行タタキ、内面はナデ
第6図4	土筋器環	溝状遺構、6層	外面はロクロナデ、内面はヘラミガキ、墨色施釉、推定底径6.4cm、残存高17cm	第6図8	和釘	2層削上部	長さ9.5cm、厚さ0.5～0.6cm、重量24.6g、曲がっている、断面は直方形を呈している

第6図 出土遺物

番号	出土位置、層位	種別	特徴	備考
1 T3、表土		磁器	急須? 近現代、内面に釉なし	
2 T3、表土		陶器	灰釉、鉢? 時期不明	
3 T3、2層上部		磁器	底不明、近現代、染付小坏	
4 T3、表土		陶器	焼頬、産地時期不明	
5 T3、表土		陶器	堤? なまこ輪の大鉢、19世紀 中頃以降	写真図版2-6
6 T4、2層上部		陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	
7 表探		陶器	唐津? 長石胎? 鉄絵瓶頬、燒成が若干あまい、17世紀前半	写真図版2-5

第1表 出土陶磁器

第7図4～6、第6図1、2は明るい灰白色を呈し、胎土に砂粒を含みガラス質に焼成されている。このような胎土の須恵器は、福島県会津若松市大戸古窯跡（会津若松市教委1993）で生産された須恵器の胎土と一致する。大戸古窯跡産須恵器は福島県域をはじめ、宮城県内の城柵官衙遺跡を中心に出土している。本資料も、その一例とみられる。第7図4は頸部から体部の破片で、二段接合の痕跡が認められる。接合部外面には低いリング状凸帯が観察される。第6図1は長頸瓶の口縁部片で、口縁端部がつまみあげられて直立する。いずれも破片資料で詳細がわからないが、概ね、9世紀代に相当するものと考えられる。

第2節 市内の施釉陶器について

これまで白石市内で確認されている古代の施釉陶器は次のとおりである。既に白石市を含む宮城県内の施釉陶器について集成がなされている（柳澤ほか 1998）。

- 1 緑釉陶器、観音崎遺跡（中橋、清野 1978）、遺構外出土、報告書図版 9-13、推定底径 6.6cm、平安時代
- 2 灰釉陶器、観音崎遺跡（中橋、清野 1978）、3号住居跡、報告書第9図5、残存高 6cm、長頸瓶？現物不明。
- 3 灰釉陶器、家老内遺跡（森 1981）第13図3、遺構外、長さ 6.8cm
- 4 灰釉陶器、家老内遺跡（真山 1981）第16図5、井戸跡、長さ 9 cm
- 5 緑釉陶器、明神脇遺跡（森 1981）143頁本文中に記載、遺構外、長さ 2.3cm
- 6 奈良三彩陶枕、白石条里制跡推定地（日下ほか 2009）、遺構外、長さ 2.6cm

観音崎遺跡においてもう一点、灰釉陶器が報告されているが（報告書第9図4）、現在の知見からすると会津若松市大戸窯製品と判断できるものである。また、第1節では触れなかったが、称宜内遺跡においても複数の大戸窯須恵器が発掘されている（日下、櫻井 2009、2010）。

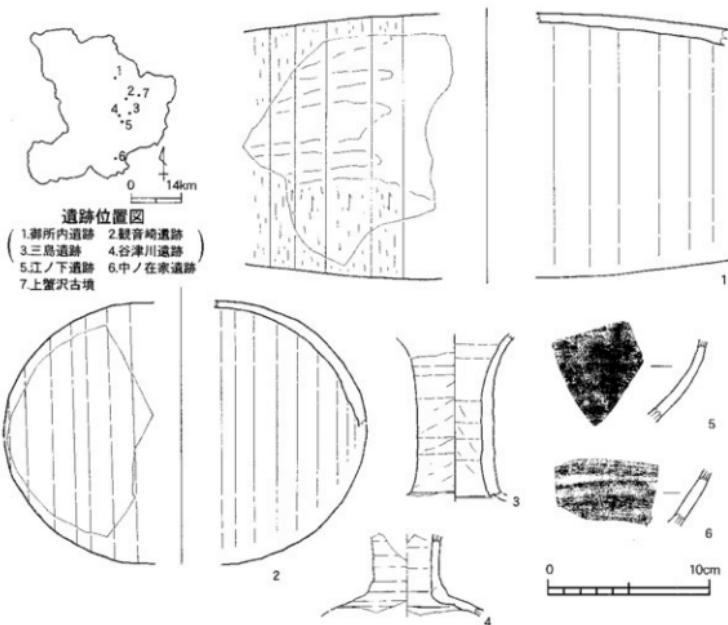
家老内遺跡報告書（森 1981）第2号住居跡出土の第6図12は古代の灰釉陶器とされているが、釉調に違和感があり、近世の所産である可能性がある。

第6章まとめ

- 1 中ノ在家遺跡は白石市南部の越河平地区の丘陵上に立地している。
- 2 発掘調査によって9世紀代の溝状遺構1基、土坑1基、土師器、須恵器が発見された。近世～近代の陶磁器、和釘が出土した。
- 3 須恵器の中には福島県会津若松市大戸窯の長頸瓶が含まれていた。

引用参考文献

- 会津若松市教育委員会 1993 会津大戸窯 会津若松市文化財調査報告書第32集
片倉信光、後藤勲彦、中橋彰吾 1976 『白石市史』別巻 考古資料篇
菊池利雄 1994 「第3章第7節 阿津賀志山防原関連遺跡」『阿津賀志山防原保管整理計画報告書』国見町文化財調査報告書第9集
日下和寿、櫻井和人 2009 市内遺跡発掘調査報告書4 『白石市文化財調査報告書第33集』
日下和寿ほか 2009 『白石条里制跡推定地はか斐能調査報告書』『白石市文化財調査報告書第35集』
日下和寿、櫻井和人 2010 市内遺跡発掘調査報告書5 『白石市文化財調査報告書第38集』
佐藤敏幸、大久保勇生2007『宮城県の湖西産須恵器』『宮城考古学』第9号・宮城県考古学会 pp.111-134
佐藤敏幸 2010 「東北地方における7～8世紀の東海南須恵器の流脈」『北社』辻秀人先生還暦記念論文集刊行会 pp.105-130
三本木町教育委員会 1971 三本木町坂本檜山横穴古墳群発掘調査報告書 宮城県三本木町文化財調査報告書第1集
菅原洋介、清野俊太郎、日下和寿 2009 八幡坂遺跡はか斐能調査報告書 『白石市文化財調査報告書第34集』
清野俊太郎、道暮智 1981 谷瀬川・江ノ下遺跡調査報告書 『白石市文化財調査報告書第23集』
高橋辰男 1978 「馬牛館と馬牛沼の伝説」『山義文化』創刊号 pp.33-40
中橋彰吾、清野俊太郎 1978 『観音崎遺跡調査報告書』『白石市文化財調査報告書第18集』
中橋彰吾 1987 「中世城郭の規模と構造について」『白石市史』3の(3)特別史下の(2) pp.543-648
真山香 1981 家老内遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書 『宮城県文化財調査報告書第81集』
森貢喜 1981 家老内遺跡、明神脇遺跡 仙南、仙居、広城水道関係遺跡調査報告書1 『宮城県文化財調査報告書第79集』
柳澤和明ほか 1998 『日本の三彩と緑釉』五島美術館
利府町教育委員会 1978 菅谷温泉寺横穴墓 利府町文化財調査報告書 第2集



番号	器種	遺跡名	遺跡番号	所在地	出土遺構	地	時期	備考
1	須恵器横瓶?	江ノ下遺跡	02134	旭町ほか	表探	湖西	7世紀代	中橋資料
2	須恵器フラスク長颈瓶	観音崎遺跡	02322	御山字観音崎	BuJ29	湖西	7世紀前～中葉?	中橋、沼野1978
3	須恵器長颈瓶	上蟹沢古墳	02148	鹿島阪塚上蟹沢	表土	湖西	7世紀後半～8世紀初め	市教委1981年発掘資料
4	須恵器長颈瓶	三島遺跡	02261	大塙沢三沢、麻糸	表探	大戸	9世紀	3段接合、中橋資料
5	須恵器長颈瓶?	谷津川裏跡	02133	東町及び旭町	AX53-5、4層	大戸	9世紀	渕野、遠藤1981
6	須恵器長颈瓶?	御所内遺跡	02320	福岡深谷字御所内	表探	大戸	9世紀	中橋資料

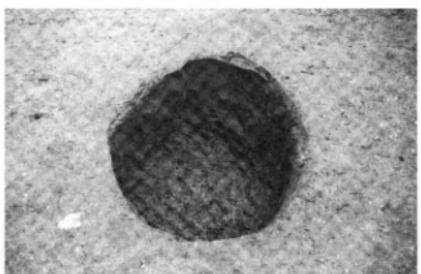
第7図 関連遺跡、須恵器



遺跡遠景（南西から）



調査風景（T3、東から）



SKの完掘状況（西から）



SD東側土層断面（北から）



▲ SDの堆積土中の砾（西から）



▲ SDの完掘状況（西から）

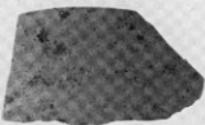
写真図版1 遺跡遠景 等



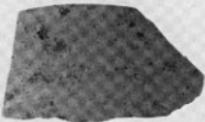
1 須恵器(第6図 1、2)



2 須恵器(第6図 3、6、7)



3 土師器(第6図 4)



4 須恵器(第6図 5)



5 陶器(唐津?)

6 陶器(堤?)



7 和釘(第6図 8)



8 三島遺跡出土 長頸瓶(第7図 4)

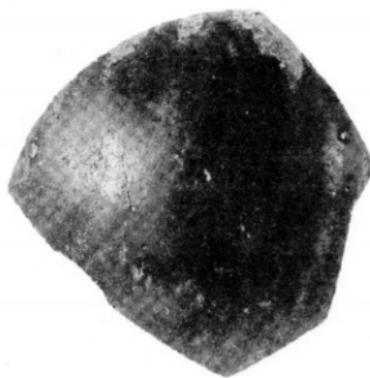
写真図版2 出土遺物(1)



1 江ノ下遺跡出土 須恵器（第7図 1）



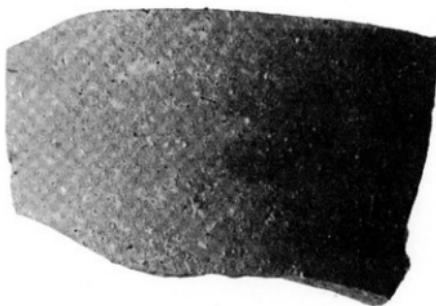
2 上蟹沢古墳出土 須恵器（第7図 3）



3 鏡音崎遺跡出土 須恵器（第7図 2）



4 谷津川遺跡出土 須恵器（第7図 5）



5 御所内遺跡出土須恵器（第7図 6）

写真図版 3 出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな 實名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 圖著者名 編集機関 所住地 発行年月日	なかのぎいけいせき 中ノ在家遺跡 白石市文化財調査報告書 第39集 日下和寿、佐藤敏幸 白石市教育委員会 〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6 TEL: 0224(22)1343 西暦2011年3月26日						
ふりがな 所収遺跡名 所在地	ふりがな 市町村 遺跡番号	コード 04206	北緯 37° 58' 52"	東経 140° 36' 41"	調査期間 2010年6月1日～ 2010年6月1日	実測面積面積 m ² 344.00	調査原因 市道改良
中ノ在家遺跡	白石市越河平字 中ノ在家	04206	02417	37° 58' 52"	140° 36' 41"	2010年6月1日～ 2010年6月1日	344.00 市道改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中ノ在家遺跡	散布地	平安	構造 土坑	上鉢器、須 恵器、近世陶器 器、和釘	会津大戸産須恵器が出土した。		
要約	9世紀代の遺構が確認された。 白石市南部の越河地区において初めて、会津大戸産須恵器が出土した。						

白石市文化財調査報告書 第39集

中ノ在家遺跡

平成23年3月23日印刷

平成23年3月25日発行

編集・発行

白石市建設部

〒989-0292 宮城県白石市大手町1-1

白石市教育委員会

〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6

電話: 0224-22-1343

印刷 (株)不忘印刷所

〒989-0273 宮城県白石市字中町25

電話: 0224-26-2070
